

組織部速報

2015年10月 9日
No. 16

沖縄平和シンポジウム開催！

10月7日、沖縄県那覇市・パレットくもじにおいて「平和シンポジウム」を開催し、JR貨物労組からは青年部を中心に23名が参加しました。これは、JR貨物労組とJR東労組が中心となり、浦添市職労も共催し、沖縄で平和問題を取り組む方々と連帯し、具体的な平和政策を打ち立てるために企画し、実行しました。稲嶺名護市長の講演を受け、パネルディスカッションでは沖縄



コンベンションビューローの平良会長やたしろ議員秘書で元自衛隊の井筒さんをはじめ、沖縄内外から多くの識者が参加し、活発な意見が交わされました。

閉会あいさつはJR貨物労組より相澤委員長が行い、「沖縄と我々が連帯し、基地なき後の沖縄の姿を提起していく。そしてシンポジウムの成功を確認しよう」と力強い決意を示しました。▼10月8日 沖縄タイムス朝刊



新基地建設と安保法を考える「沖縄平和シンポジウム」に登壇したパネリスト7日、那覇市・パレット市民劇場

「米軍抑止力は曖昧」 JR東労組 那覇でシンポ

名護市辺野古の新基地建設と安保法を考える「沖縄平和シンポジウム」(主催・JR東日本労組、JR貨物労組)が7日、那覇市内であり、ジャーナリストや識者らが活発な意見を交わした。

シンポでは、フリージャーナリストの屋良朝博さんが「米軍の抑止力はゆくしかり」と指摘。米海兵隊の現在の動きや日米両政府の関係などを示した上で「日本

で語られている抑止力は曖昧で、政治決定の曖昧さも問題だ」と指摘した。

沖縄観光コンベンションビューローの平良朝敬会長は、米軍基地の跡地利用で発展している北谷町などの現状をデータを示した上で「基地と観光は共存できない。脱基地経済が沖縄を発展させる」と強調した。

また、沖縄タイムスの与儀武秀記者は琉球王朝時代からの歴史を紹介しながら「圧倒的不均衡な基地負担が形成されてきた」と沖縄の現状を説明。辺野古の新基地建設について「比喩的に言えば、原発事故のあった福島に、もう一度新たな原発を造ることになれば国民的理解は得られないと思うが、沖縄に新基地が認められることになればあまりにも理不尽、不条理だ」と訴えた。

そのほか琉球大学の我部政明教授、国会議員秘書で元自衛隊の井筒高雄さんもパネリストとして登壇した。